



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 54

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 54. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1957, 54: 61-66

ISSUE DATE:

1957-03-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186816>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

No. 54

1957. 2月(3月5日)

録 事

本号冒頭にのせねばならない悲報は、瀬戸臨海実験所創設当時の在勤功労者であり、かつ当水族館の生みの親でもあるところの元実験所職員雅賢弥之助氏の思いがけない急逝である。氏は大正11年(1922)の創設時より昭和27年(1952)3月31日停年退取まで30年の長きにわたって、実験所に在取され、退取後も正門前の自宅にあって終始実験所を吾子のように愛され、その発展のために盡くされた功績は筆舌につくすことはできない。かつてはナポリ実験所のLobianco、東大三崎実験所の青木熊吉氏にも比すべき瀬戸近海の生き辞引として、多年の豊富な経験は田辺湾は云うに及ばず紀州沿岸の動物の在処に精通させ、またその温厚な性格と風貌は学生や取員から一様に船長さんの愛称を以って呼ばれ親しまれていた。晩年は神経痛をわずらわれ、また自身では気のつかれなかつた胃癌で、心臓障害を発症され、わずか1ヶ月の臥床で思いがけずも2月10日午後8時15分、赤塚先生のあとを追われるかの如く遂に不起黄泉の客となられた。没年69才。惜しみてもあまりある御生涯を偲び、ここに謹んで御冥福を祈る。

動物園水族館協会主催の全期初の才1回水族館関係技術者講習会が、2月14・15の両日にわたって堺市立水族館で開催された。講習会には宮地会長が講師として出席し、「海の魚と水槽の魚について」と題して講演を行つた。なお同会の席上本水族館で9月中旬

(予定) 臨海実習を開く計画あるとのことが発表されたが、本水族館にはまだその連絡はない。

明光バス取扱がいの観光連帯券による観覧料金は毎月2回に分けて明光バス本社より支拂われることになっているが、毎回その金額は50万円程度であり、支拂が延滞しがちで甚だ迷惑を被っているので、番所山植物園と連署で抗議を申し入れた。

前号に報じた南海岸への降り口は、2ヶ所完全に舗装されて幅広くなり、観光客に喜ばれている。

先月着荷したBポンプは西村商会の手で取付けを終わったが、なお導入パイプに漏れる部分あるを認めたので、埋設箇所を全長にわたって掘起こし、接着箇所の補強修理中である。尚モーターの馬力が高くなったので進相器、起動応閉器を新たに設置する必要を生じた。

UNESCO 委託の研究のため、東京家政大学の高橋敬三氏は2月5日～7日来所され、東洋真珠会社の養殖場でPolydoraによる真珠貝の蝕害調査をされ、また実験所々蔵の多毛类標本の一部を調査された。

————— ✕ —————

✕

✕

✕

✕

業 務 概 況

◎ 2月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	6981	80677	17122	157338	24103	238015
小 人	147	6379	72	3908	219	10287
団 体	14367	123191	—	—	14367	123191
合 計	21495	210247	17194	161246	38689	371493
無料入場者				0	0	1080

団 体 : 一般 159組, 学生 4組, 計 163組

◎ 2月の事業収入

(今年度累計)

観覧券売上金	716,899	6,777,197
予金・積立金利子	—	49,082
雑 収 入	—	11,205
興 業 持 下	—	100
計	716,899	6,837,584

◎ 2月の支出

水族館経費

管 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	56195	816,128	
会 社 費	—	68,507	
備 品 費	—	194,210	
消 耗 費	16,150	141,144	
事 業 費	47,223	473,755	
維 持 費	33,715	175,456	ポンプ取付工事等
其 他 経 費	9,137	256,206	狸野氏への御香料及花車輪等
待 立 金	12,189	1,154,655	
合 計	284,313	3,280,061	

実験所経費

費目	金額	累計	備考
研究費		80,565	
奨学金	5,000	55,000	
備品費	158,000	204,640	二段タービンポンプ
刊行費		307,375	
役務費		62,125	
合計	163,000	709,705	

博物館経費

費目	金額	累計	備考
入件費	5,300	67,535	
備品費		88,500	
消耗費	4,080	14,835	標本ラベル印刷
役務費		25,810	
合計	9,380	196,680	

臨時費

支出なし

支出合計

(今年度累計)

水族館経費 284,313 3,280,061

実験所経費 163,000 709,705

博物館経費 9,380 196,680

臨時費 — 400,875

計 456,693 4,587,321

◎ 2月末現在高

前月からの繰越 2,093,241

今月の収入合計 716,899

今月の支出合計 456,693

現在高 2,353,447

◎ 前年度との比較

	1956	1957	増 減
入 場 者 数	28,934	38,689	+ 9,755
売 上 金	552,823	716,899	+ 164,076
支 出 金	508,741	456,693	- 52,048

水族館記事

- ◎ 残る3匹のアカウミガメの仔も遂に全部死んだ。
- ◎ ハマチ7匹死亡
- ◎ 14日珍らしくアンコウが1匹入槽したが、すでに傷んでいた
ので3日後には腐敗してしまった。
- ◎ 21日ノコギリガザミ♀1匹死亡。
- ◎ 23日タカアシガニ♀1匹、今年になって始めて入槽したが、
1匹だけでは淋しい。
- ◎ 26・28日にエビスダイ各1匹づつ入槽したが、いずれも元気が
ない。
- ◎ 27日ドチザメ(約6貫)1匹入手、このためNo.24の大水槽は
ドチザメ5匹、カスザメ2匹、オオセ1匹、アオブダイ1匹、
クエ1匹、ハマチ8匹の大物から、マハタ、アカエイ、ガン
ギエイ、タカノハダイ、ホウボウ、ウツボ、アイゴ等の小物
が多数、所狭ましとばかりに入つて、早春の水温と水槽内の
生活を改歌しているかの如く見える。

博物館記事

- ◎ 1月早々から水族館に飼っていた大形のニシキエビが27日
死んだので、乾燥標本にした。
- ◎ カゴカキダイの生態写真1葉を和歌山市東洋印刷会社に貸出
す。

資 料

◎ 2月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(16)	4	7	5
気 温 (C°)	10.2 ~ 13.0 11.8	3.5 ~ 11.9 7.8	6.2 ~ 10.3 8.9
水 温 (C°)	14.8 ~ 16.1 15.3	12.0 ~ 14.8 13.0	11.6 ~ 13.7 13.1
比 重	25.3 ~ 26.6 26.0	25.8 ~ 26.5 26.3	26.0 ~ 26.5 26.2

※

来 訪 録

2月16日 熱海水族館長鈴木亨次郎氏来館見学。

2月27日 今春鹿児島市立鴨池動物園内に新設される水族館計画の資料蒐集、施設参考のため同市交通局工務課長新垣利氏、全課技師宮原矢一氏来館。

※

但し { 気温は南水槽室
 水温 } で9時測定
 比重 } はNo.25水槽

昭和32年3月5日	(No. 54)
編集兼 発行者	内 海 富 士 夫
発行所	瀬戸臨海実験所振興会 和歌山県白浜町 瀬戸臨海実験所内 (Tel. 白浜温泉 515)